

学習指導要領		都立狛江高校 学カスタンダード
<p>(1) 現代の政治</p> <p>現代の日本の政治と国際政治の動向についての関心を高め、グローバル化する国際社会で主体的に生きる平和で民主的な公民として資質を育成するとともに、民主政治の本質を把握させ、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成にいつそう積極的な役割を果たそうとする自覚を深め、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。</p> <p>ア 民主政治の基本原則と日本国憲法</p> <p>政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治などについて理解させ、民主政治の本質や現代政治の特質について把握させるとともに、日本国憲法における基本的人権の尊重、国民民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所、地方自治などの統治構造を概観させ、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察、構想、表現させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会契約説について現代の民主政治との関連を踏まえて、例えばホブズとの比較の上でロックが説いた自然権に基づく国家・政府の在り方は現代の議会制民主主義・選挙制度の基盤となっていることなどを理解する。 ・大日本帝国憲法との違いを明確にしながらい現行憲法の三大原理を理解するとともに、旧憲法では天皇が統治権を総攬するとしていたが、日本国憲法においては天皇は内閣の助言と承認により国事に関する行為を行うとされる象徴天皇制となっていること、およびその理由を理解、評価する。 ・我が国における三権分立の仕組みについて、国会、内閣、裁判所の各機関の働きと相互の関係を、諸外国との比較、特に、議院内閣制の特徴を大統領制との比較によって理解する。 ・自由権的基本権と社会権的基本権の相違を踏まえながら、その成立の背景に経済格差が存在していたことを理解する。そのときに、たとえば生存権の保障が、夜警国家から福祉国家への転換や福祉政策に関わる立法過程と深く結び付いていることを理解する。 ・現代社会における相互の権利や利害対立を調整するための原理に「公共の福祉」という考え方があることを、経済的自由権の制限に関する判例学習を通して理解し、考察する。 ・我が国の議会制民主主義について、日本国憲法の条文に則して理解するとともに、議院内閣制を採用するイギリスや大統領制を採用するアメリカ合衆国の政治制度との比較を通じて、その特徴を理解する。 ・我が国の地方自治制度において、住民自治の実現を図るため、条例の制定・改廃、議会の解散、議員や首長の解職などについて住民の直接請求権が認められていることなどから、地方自治が民主主義の学校として期待される役割をもつことを理解し、考察する。 ・同じ民主政治を採用しているとはいえ、世界各国の政治体制や政治状況は多様であることを理解するとともに、現代における福祉国家の広がりに伴い、国家機能の複雑化が進行し、行政府の権限の強大化（行政国家化）している現状について理解する。 ・我が国の戦後政治史を概観し、中選挙区制の下での自民党による長期政権の持続や、選挙制度改革後の政権交代の動きなど、選挙制度と政治情勢の変化について事例 	

学習指導要領	都立狛江高校 学カスタンダード
<p>イ 現代の国際政治</p> <p>国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献について理解させ、基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目しながら、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握させ、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割および自己の取るべき行動を考察させる。</p>	<p>を踏まえて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の多極化が進行する中で環境、人権、貿易などの分野で各国の対立が発生し、いっそう深まりをみせる中で、国際機関や非政府組織（NGO）による問題解決のための取組が強く求められている現状を理解し、自分たちがその活動にどのように参加していけるのかを考察、構想する。 ・ウェストファリア条約を端緒とする主権国家体制の成立や、主権国家体制と国際法による秩序形成の意義について理解する。 ・国際法上の人権、国家主権に関する規定を理解するとともに、我が国固有の領土である北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる問題の経緯および我が国の正当な立場、そして問題解決の難しさを理解する。 ・国際連合の機能・役割について、総会での決議方法の違いや国際連合において軍事的制裁が可能になったことなどを、国際連盟の持っていた課題と比較しながら理解する。 ・我が国の国際貢献活動として、例えば、国際社会の平和と安全を維持するために自衛隊が果たしている役割や具体的な国連平和維持活動（PKO）の意義と課題などについて理解する。 ・冷戦後の国際政治の動向を踏まえて、人類の平和的共存を実現するには、民族対立や国際紛争の背景にある、文化や宗教の多様性について相互理解を深めることが重要であることを、紛争の実例の学習を通して理解する。 ・国際平和の実現、地球上の貧困や飢餓の撲滅に向けて、我が国をはじめとする先進国が果たすべき役割とSDGsに期待されている役割および自己が取るべき行動について考察する。

学習指導要領		都立狛江高校 学カスタンダード
<p>(2) 現代の経済</p>	<p>現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について理解させるとともに、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、その特質を把握させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。</p> <p>ア 現代経済の仕組みと特質</p> <p>経済活動と市場、国内経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、持続可能な財政及び租税の在り方や金融の仕組みと働きについて多面的・多角的に考察させるとともに、現代経済の歴史と特質、その構造的課題について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生産物、サービスを効率的に分配するための仕組みとして私たちの国では市場経済が発達してきたことを理解し、その具体的な現象を分析する。 ・家計、企業、政府の経済的な相互関係が国民経済の全体を構成していることや、貿易や為替など国際経済の動向が国民経済に、間接的にも直接的にも影響を与えることを理解する。 ・需要供給曲線を活用して価格メカニズムについて理解するとともに、公害などの外部不経済の発生や、企業の巨大化に伴う寡占の広がりなど、市場機構が十分に機能しない場合には、自由放任にこだわらずに政府による適切な政策が必要であることを理解する。 ・インフレーションやデフレーションの発生が国民生活に与える影響について、インフレーションは景気の過熱や投資・投機の拡大と結び付き、デフレーションは景気後退や不況と結び付いていることを理解する。また国際情勢が物価に影響を与える例としての石油危機の学習を通してスタグフレーションの起きる仕組みと事例を理解する。 ・財政による景気調整の機能として、増減税や公共支出を活用した伸縮的な財政政策（フィスカルポリシー）及び自動安定化装置（ビルト・イン・スタビライザー）について理解し、その組み合わせや効果を分析する。 ・景気調整のための金融政策の考え方や金融市場における金利動向について、中央銀行が公開市場操作を行うことで通貨供給量を調整していることや、金融市場における金利の動向が通貨供給量の変化に波及し、消費や貯蓄、投資行動に影響を与えることを事例から理解する。 ・同じ市場経済に基づく経済であっても、国や地域によって独自の歴史や文化的背景をもち、それぞれ特徴を有していることについて、我が国と欧米諸国との比較を通じて理解し、俯瞰する。 ・経済活動と国民福祉との関連について、環境保全よりも経済成長を重視することで、公害などの外部不経済が発生し、結果、むしろ国民福祉が阻害される場合があることを事例とともに理解し、持続可能な経済活動について考察する。

学習指導要領	都立狛江高校 学カスタンダード
<p>イ 国民経済と国際経済</p> <p>貿易の意義、為替相場の変動や国民経済と国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解させ、相互依存関係が進む国際経済の特質について把握させ、国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。</p> <p>(3) 現代社会の諸課題</p> <p>政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究する活動を通して、よりよい社会の在り方について考察を深めさせる。</p> <p>ア 現代日本の政治や経済の諸課題</p> <p>少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方を可能にする社会、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食料問題、防災と安全・安心な社会の実現などについて政治・経済とを関連させて探究、提案させる。</p>	<p>・貿易の意義について、アダム・スミスの見えざる手やリカードの比較優位説を踏まえて国際分業の利点を理解するとともに、国際収支の内訳や変動相場制の仕組み等について理解し実際の為替相場を分析する。</p> <p>・国際貿易体制の動向をGATTの各ラウンド交渉の変遷を通じて知るとともに、ブレトンウッズ体制からスミソニアン協定を経て変動相場制へ移行したという、国際通貨制度の変遷について理解し、現在の経済体制の理解を深める。</p> <p>・グローバル化が進む国際経済の特徴の一つに地域経済統合があることを知り、EUのように政治統合まで志向する地域や、東南アジア諸国連合（ASEAN）のように経済統合を目指す地域など、様々な形態があることを理解するとともに、イギリスのEU離脱などを踏まえ、地域経済統合も課題を多く抱えていることを理解し、望ましい国際協力について考察する。</p> <p>・南北問題の原因とその解決策及び南南問題と呼ばれる新たな経済的格差問題とその解決方法の試みについて理解する。例えば、アラブ地域の産油国やアジアを中心とする新興国の発展とその課題について、資源ナショナリズムや国際通貨危機などに関連させて理解したり、途上国に対するODAやマイクロファイナンス、フェアトレードなどの活動があることを理解し自己の生活の延長線上にある現状を想像する力を養う。</p> <p>・少子高齢社会における社会保障の在り方について、政府による行政的な福祉政策を重視する考え方と、国民の自助努力を重視した福祉の考え方とがあり、具体的な事例を通じて理解しながら自己の立場を振り返る。</p> <p>・地域社会の特色ある発展を促すには、国と地方の関係を見直し、地方分権を推進するための政策や制度を改廃すること、およびそのための議論が必要であることを理解する。</p> <p>・雇用と労働を巡る問題については、終身雇用制や年功</p>

学習指導要領	都立狛江高校 学カスタンダード
<p>イ 国際社会の政治や経済の諸課題</p> <p>グローバル化に伴う社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題と地域紛争、国際社会における日本の立場と役割および自己の取るべき態度などについて、政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想させる。</p>	<p>序列型賃金体系などにより雇用安定を重視する考え方と、規制緩和による自由化を進め、労働力を効率的に活用するという考え方があることを理解し、自己の立場を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業構造の変化と中小企業については、経済のグローバル化や国際競争の激化、規制緩和の進展などの状況が見られる中で、経済安定化のためには政府による保護育成が必要と考える立場と、規制緩和による自由化をさらに進める立場とがあることを理解し、自己の立場を振り返る。 日本の今後の農業と食料の問題については、農業における生産、流通、貿易を自由化し、競争原理を導入する考え方と、国内農業を保護するための政策を推進する保護主義的な考え方があることを理解し、自己の立場を振り返る。 地球環境と資源・エネルギー問題については、地球環境の保全を優先する考え方と、生活水準の向上を目指す経済発展（開発）を優先する考え方とがあることを理解し、どちらも実現するために持続可能な開発という概念が謳われるのだという構図を理解し、考察する。 国際経済格差の是正については、先進国や国際機関による ODA などの経済援助を中心とする考え方と発展途上国の自助努力を中心とする考え方などがあり、発展途上国の経済的自立と地球の持続可能な発展が重要な課題であることを理解し、望ましい援助について考査する。 人種・民族問題や地域紛争については、少数民族の分離・独立という考え方と多数民族との共生という考え方とがあり、その二つの考え方を対照しながら調和をめざし、現実の地域紛争等の問題を理解しようとするのが民主的で平和な社会を実現させるための必要な態度であることを理解する。 我が国の国際貢献が、従来は資金面での援助や協力を中心であったことを踏まえ、今後は青年海外協力隊の拡充や国際機関等で活躍できる日本人の育成など、人的貢献にも力を入れる必要があることを理解する。

